



南雲 正

不透明ながん治療施設の 誘致問題を決着し、 正常な町政運営を取り戻せ

がん治療施設の誘致は、昨年9月14日に町をあげての町民説明会を行い、町民に多くの期待を持たせた。提案者からは土地の売却を求めめるだけで具体的な計画も示されず、全く進展がないまま、スーパー特区の落選、不明朗な汚染土壌調査の実施、事業主体になる財団も設立されないまま関係者が消えてしまい、(医)桂仁会渥美理事長らが多額の債務の履行を求めて行方を追っている。提案者について町民説明会の前、9月議会の一般質問で信頼できる人たちではないことを個々具体的に指摘し、調査と慎重な対応を求めてきたが、町長からは聞き入れて貰えなかった。この計画の提案者である(医)桂仁(会)理事西村訓子氏、財団理事長予定者丸茂正光氏の虚言のみを信頼し、真に町の将来を憂い、慎重な対応を求める声を

無視してきた町長の責任は大きい。この問題に対する今後の対応について伺いたい。

質問

先般の新聞報道によれば、がん治療施設の誘致を断念し、この土地に企業誘致を引き続き進めることで責任を果たしたい、ということであるが、彼らの拠点の茨城に調査に向ければ全てが簡単にわかり、無駄な時間と経費を費やすことはなかったはずである。提案者の言うことのみを信頼し、素性も見抜かず町を騒がせたことに対する町長の責任と、期待に夢を膨らませた町民への事情説明と謝罪はどのような方法で行うのか。

町長答弁

一方的な話を聞かせていたのだが、議員の言うことをそのまま受け取るわけには行かない。提案者たちの素性を見抜けな

ったことは悪いと思っているが、遊休地を何とかするために努力している。広報や地域回りで町民に事情説明を行い、今後は遊休地の利活用に力を入れたい。

質問

町長就任時の町民との約束は「わかりやすい町政、私は全てはたはすである。調査もせず最初から矛盾だらけの計画を信じ、広報の紙面を6回使い、新聞報道(日報8回、朝日3回)月刊雑誌に3回報道され、町を騒がせたにも関わらず全く反省することなく問題をすり替えている。当たり前の町政運営を行えばこんな状況にはならなかったのではないか。

町長答弁

(医)桂仁会理事長渥美氏、当初提案者のメンバーだった熊田博士については、言われている

ことは別な情報が私には入っている。この人たちが信じていることは出来ないと言言できる。西村氏、丸茂氏の素性を見抜けなかったのは悪かったが、この人たちの言っているがん治療施設の誘致を何とか持って来たいの一念であった。これからの私の生き方の反省材料にしたい。

いづれ町民の皆様にご真摯にお話して理解を求めたい。

質問

がん治療施設誘致問題について、いかなる負担も町にかけないと公言していたが、現実には関係者との接触や関係会議への参加が頻繁に行われていた。町長をはじめとする関係者の出張等に関わる経費、職員総動員による町民説明会の開催費、汚染土壌処理調査費等が支出されていると思うが、その支出額と内容について明確に伺いたい。また、関係者が消えてしまい、幻に終わってしまったことに対して公費が費やされた現実をどう受け止め、対応されるのか伺いたい。

町長答弁

議会の視察経費を除いた打ち合わせ関係旅費36万円、町民説明会38万円、土地関係調査532万

円である。汚染土壌の処理方法と土地の実際の価格がわかり、今後の土地利用に必要な経費と考えている。旅費等も汚染土壌対策の必要経費である。

質問

調査もせず、西村、丸茂氏の言動のみを信じ、まやかしの町民説明会を行い、都合で参加できなかった職員に対して勤務評価でペナルティを課し、自らの責任を考えないのはいかかろうか。このような行政運営を続ければ職員の信頼も失い、行政運営に支障をきたすこととなる。猛省を求めます。

町長答弁

町政の運営のやり方まで指導いただいたようであるが、私のところには西村、丸茂氏以外の話として別な話が入ってきている。私自身は私の信じているところから動いている。

総務課長答弁

町の重大関心ごとに職員がどう対応するかという観点から、担当者を除いた班長以上の管理職の参加しなかったものには勤務評定で減点し、管理職以外で参加したものには加点した。

一般

質

問